

AJBRC文庫

タイム

時

原 和規

この電子書籍はコミックマーケット 93 で  
頒布したものを電子書籍用に再構成したものです。

AJBRC文庫

タイム

時

原 和規

目次

あ	年表	四、	三、	二、	一、	ま
と		み	s	感	時	え
が		な	t	覚	間	が
き		さ	の	時	と	き
		ん	問	間	は	
		へ	題	と		
		の	点	言		
		メ		う		
		ッ		物		
		セ				
		ー				
		ジ				
・	・	・	・	・	・	・
・	・	・	・	・	・	・
・	・	・	・	・	・	・
2	2	1	1	1		
2	1	9	6	1	4	3

まえがき

みなさまご無沙汰しています。この度はA J B R C文庫最新刊『時』<sup>タイム</sup>をお手に取っていただき本当にありがとうございます。最初は今回もいつものように朗読作品をお届けする予定だったんですが・・・諸般の事情により・・・(A J B R Cの作品をよく手に取ってくださいているみなさんなら判るあの理由です)二年半ぶりの書籍となりました。

いつもですとまず『まえがき』を書いてから本編を書き進めて行くんですが今回は珍しく『まえがき』と言っておきながら本編を書き終わった後に書いています。

ですから結末が全部わかってるんですよね。まるで・・・あの人の様に・・・

その『あの人』とはいったい誰なのか？

気になりますよね。

では本編をお読み下さい！

## 第一章 時間とは

### 一、時間とは

時とは何なんでしよう。時、それは悠久の流れ。とよく表現されます。また、時は誰にでも広く平等に流れているとも言われます。しかし、本当にそうなんでしようか？

と言うのもよく子どもの頃はもつと時間が長く感じられたのに大人になったら時間があつと言う間に流れるとか、楽しい時間はあつと言う間に過ぎる。と言う表現を目にしたり聞いたりすることがあると思います。

つまり、時間と言うのは一定に流れるものではなく可變的に流れるものなのではないかと。

時計を見ていると時間は一定して流れているように見えます。ですが時計と言う機械は時間を計る物であつて時間の長さが一定かどうかを計ることは出来ないのです。

そうなんです。実は時間と言うのは一定ではないんです。

この物語を読んでいるみなさんの時代には時と言う物は常に一定だと考えられています

## 第一章 時間とは

た。しかしそれから遠い先、私たちが住む時代には時と言うのは可変的に流れるものであることがもはや一般常識となつていゝるんです。この物語はそんな遠い未来。時が可変的に流れることが判かつた未来の物語です。

さて唐突ですが、みなさんは『アインシュタイン』と言う人をご存知でしょうか。きつとどんな研究をしたか知らない人でも名前ぐらひは聞いたことがあるんじゃないでしょうか？

アインシュタイン博士は二十世紀の有名な物理学者で、あの『相対性理論』を定義した人です。

そうなんです。実は二十世紀には時間が一定に流れている物ではなくある特定の条件下では変化する。もつと言えば物体は光の速さに近づけば近づくほど時間は相対的に遅くなると言ふことが理論の上では解明されていたのです。

そう『理論』の上では・・・

この『理論』の上ではと言ふのがとても重要なんです。

と言うのも二十世紀とそれに続く二十一世紀には光の速さで物体を移動させると言う技術は確立されていませんでした。超大規模な高加速実験装置を使ってそれに近い速さで実験をすると言うことは可能になっていましたがそれでも光の速さよりは遅く光の速さにすることは出来ませんでした。

だから相対性理論の世界を実際に目で見て体験する人は現れませんでした。

しかしそれから何百年も経った遠い遠い未来。人類はついに光の速さで物体を移動させる手段を見つけ出しました。そして相対性理論の世界を目で見て実際に体験することが出来るようになったんです。

もちろん生身のまま人間がその光の速さを体験しようとしたらその凄まじい加速度で体が潰れ死んでしまいます。ですがその光の速さに達する技術が確立されると同時に人間を安全にその速さの中でも生きられるシールドのような機構が開発されました。それが開発されたことで人類は初めて光の速度で移動すると言うことを体験出来るようになったのです。その結果、二十世紀の偉大な物理学者『アインシュタイン』の『相対性理論』はや



## 第一章 時間とは

はり正しかったと言うことが証明されたんです。

実はアインシュタイン自身もこの相対性理論を持つ特異な点『物体は光の速さに近づけば近づくほど相対的に時間が経つ早さは遅くなる。』と言う現象は間違いだと思いきその理論の計算式を後に変更しています。二十世紀当時はそれだけ特異な理論だったんです。

ただ二十世紀の終わりから二十一世紀の初めにかけて大規模な実験により元々の式が正しかったとして戻されています。

もしもこの式が元に戻されていなかったとしたら・・・きっと私たちの時代になっても時間はどんな場合でも一定に流れるものだと思われていたに違いありません。

そう、信じられていたに。

相対性理論では『光の速さに近づくと』と言う条件が課せられていましたがよくよく研究が進んで行くと光の速さ以外でも時間の流れが揺らぐと言う現象が確認されるようになりました。時間の流れが遅くなるのは『光の速さ』と言うのが関係します。ですがそれは単なる一つの条件に過ぎず実はそれ以外にも変化する条件が判明したんです。その条件と

言うのは人の『気持ち』。もっと言えば観測者である本人の『気分』によって変化することが判明したんです。

この物語の最初にも書きましたが『子どもの頃は時間が長く感じた』。これは観測者たるその人が時間と言う物に対して充実感などからゆっくり流れていると言う風に考えていたからでその考えがその周りの空間に作用し時間の流れ方を相対的に早くしていたんです。

逆に大人になると『仕事仕事で時間があつと言う間に過ぎる』と思うことが多くなりそれがまた空間に作用して時間の流れ方を子どもの頃とは正反対に遅くしているんです。

そう言うことが研究によって判明しました。

まさに『気分』と言う物が時間の流れ方に影響を与えるんです。

私たちの住む時代ではまだ実現されていませんが時間の流れを変化させると言うのを応用することで『時間移動』が可能になるのかも知れません。

今は過去から未来の一方向へと時間の流れに身をゆだねるだけです、この流れを遡り過去へ行くことが出来るようになるかも知れません。

現状は行ったきりになってしまい危険なのでよほどのことがない限り極端に時間の流れ方を進める人なんていません。ですが過去へ戻る事が出来るのであれば未来へと時間を一気に進めて未来を見てその後、時間を戻してまた元の日時に戻るつまり、時間旅行も夢ではなくなるかも知れません。

いつか時間旅行が出来るようになったら私もいろんな時代に行ってみたいです。ただあまりに時間、もつと言えば歴史に介入してしまうと思いがけないことになってしまうかも知れません。例えば私が存在しなくなったり・・・もつとまづくすると人類その物が存在しなくなるかも知れません。ただよく考えるとそれすらおかしくなるんです。

だってそうでしょう？

もし、もしもですよ、私が人類の祖先になる動物をうっかり死なせてしまったとします。すると当然この動物の子孫として生まれてくる人類が誕生しなくなる。すると、私も生まれなくなります。ですが私が生まれなくなると言うことは私に死なされてしまうはずの動物の運命はどうなるのか。私と言う存在がいはいはずなのに私が死なせてしまう。そこで

## 第一章 時間とは

時間的な矛盾が生じるんです。よく二十世紀に大ヒットしたタイムマシン物の映画で言われていたがこの場合、その動物の周り全体の時間をはじめとしたありとあらゆるものが崩壊してしまうかも知れません。ただもう一つの可能性も考えられます。それは私には全く影響がないかもしれないと言うこと。まさにパラレルワールドを生む危険があります。もしもパラレルワールドに迷い込んでしまったが最後、私は二度と元の場所に戻れないでしょう。

そう言った矛盾が生じないようにするために案外どんなにがんばっても過去へ戻ると言う所謂時間逆行は出来ないようになってきているんだと思います。何かしらの大きな力によって。まだ説明されていませんがそんなものが存在するような気がします。

ここまでお読みいただきありがとうございました。  
もし気に入っていただけましたら続きは有料版を  
お読みください。

作者